

下郷町青少年育成町民会議だより

青少年の主張発表、青少年健全育成作品コンクール、世代間交流グラウンド・ゴルフ大会

第33回下郷町青少年の主張発表者

小学生の部

No	氏 名	学校名	学 年	題 名
1	さくらぎ 櫻木 美優	旭田	5 年	「裏を美しく」
2	さとう 佐藤 日和	江川	5 年	私たちの宝 大内宿
3	ゆだ 湯田 護	檜原	5 年	知ってほしい下郷町の良さ
4	さとう 佐藤 絵	旭田	6 年	ありがとうの気持ちを
5	いがらし 五十嵐 あずさ	江川	6 年	広島から学んだ平和
6	ほし 星 あおい 葵	檜原	6 年	言葉の力

中学生の部

No	氏 名	学校名	学 年	題 名
1	たまかわ 玉川 翔也	下郷中	1 年	だれもが感じる命の大切さについて
2	ほし 星 奈緒	下郷中	1 年	地球を壊さないために
3	すずき 鈴木 理子	下郷中	2 年	言葉を刃にするな
4	わたなべ 渡部 心優	下郷中	2 年	友達とは
5	ほし 星 恵摩	下郷中	3 年	この“想” 伝われ
6	ほし 星 美咲	下郷中	3 年	「受験」について考えたこと

6月30日(金) 下郷ふれあいセンターにおいて、第33回下郷町青少年の主張発表及び青少年健全育成作品コンクール表彰式が開催されました。町内小学校4年生以上の児童及び中学生約250名が参加しました。

各学校の代表者12名が、主張発表を行いました。自分の考えを文章にすること、また、伝えることの難しさを感じると共に、伝える楽しさも知ることの出来た良い機会となったのではないのでしょうか。

また、青少年健全育成作品コンクール(ポスターの部・標語の部)においても、どれも素晴らしい作品で審査も困難を極めました。入賞作品については6頁に掲載しています。主張発表終了後、入賞者全員に賞状と盾が授与されました。

※今号2頁から中学生、次号にて小学生の主張発表内容を掲載いたします。

町青少年の主張発表・ 青少年健全育成作品コンクール表彰式



7月8日(土) 大川ふるさと公園において、青少年健全育成世代間交流グラウンドゴルフ大会が開催されました。大会には13チーム約90名が参加しました。当日は晴天に恵まれ、小学生からお年寄りまで、世代を越えて楽しく交流することができました。成績は次のとおりです。

青少年健全育成世代間交流 グラウンド・ゴルフ大会

【団体の部】

優勝 刈林
優勝 落合A
準優勝 大松川B
3位 落合B

○一般の部
優勝 児山正己(刈林)
準優勝 玉川波子(モリソネズ)
3位 和田山陽代(モリソネズ)

【個人の部】

○小学生の部
優勝 平野鈴(落合A)
準優勝 武藤溜々花(落合B)
3位 白澤悠馬(松原)

○高齢者の部
優勝 佐藤武巳(中妻B)
準優勝 佐藤節子(中妻A)
3位 玉川百子(刈林)

○中学生の部
優勝 平野翔(落合A)
準優勝 玉川出海(刈林)
3位 星葵(刈林)

【ボールインワン賞】
佐藤恒吉 星廣子 武藤溜々花
児山正己 小椋美喜子 渡部俊
一 玉川百子 白澤悠馬 木村
タケヨ 渡部純平 星堅二 佐
藤節子 星長光 佐藤武巳 佐
藤諒汰朗 植村昭夫 玉川綾子
玉川波子 和田山陽代 和田山
スミ子



【共催事業】WAKUWAKU 子ども教室を開催しました！

9月2日(土) 下郷ふれあいセンターにおいて、下郷町放課後子ども教室(下郷町教育委員会)主催、【下郷町青少年育成町民会議 共催事業】WAKUWAKU子ども教室人形劇が開催されました。立正大学児童文化研究部の大学生による巡回公演会として実施され、子どもたちが楽しく観覧しました。



下郷ふるさと祭り宵夜祭における巡回補導

7月29日(土)に大川ふるさと公園で開催されたふるさと祭り宵夜祭において、町民会議補導部会事業の一環として、南会津警察署や少年補導員の方々と合同で、会場内外の巡回補導を実施しました。

地球を壊さないために

下郷中学校 1 年
星 奈緒

突然ですが、みなさんは、地球が今壊れ始めているのを知っていますか。近年、地球温暖化などの世界規模の環境問題が叫ばれています。みなさんの耳にも入っていることだと思います。

それでは、地球が壊れ始めている中で、皆さんは何か地球を守るために行動を起こしていますか。非常にスケールの大きい話ですので、私達にできることは非常に小さなことだけです。しかし、よく考えてみてください。地球の環境問題に大きくスポットが当てられてきたのはここ最近です。地球温暖

化、海水面の上昇、エネルギー資源の枯渇など。これらの言葉は最近になってよく聞くようになったと思います。

ということは、何年か前までは、地球の環境に危険を及ぼすような事態はなかったのでしょうか。つまり、ここ数年で地球の環境が大きく変化したということです。その原因は一体どこにあると思いますか。それは、私達の生活の中です。

だから、私達の生活レベルのことを変えていくことで地球の破壊を少しでも食い止めることにつながるのです。

そのために、私は、「リサイクル」という言葉をキーワードにしたいと思います。リサイクルとは「再循環」という意味で、使ったものをそのまま廃棄へと回すのではなく、再び使えるように循環させるということです。

私は、とあるお年寄りにこんな話を聞いたことがあります。昔の着物は、一枚の四角い布から作っていたそうです。様々な場所を縫い、最終的に着物として完成するのです。縫った箇所をほどこいていくと、一枚の四角い布に戻ります。つまり、着ることのできなく

なった着物などは一度元の状態に戻すことで、また縫い直すことが出来るのだそうです。また、昔の家を作るときには、様々な工夫が施されていました。昔の家は、ほとんど金属を使わずに組み立てていきます。くぎなどを打ってしまおうとその部分から木が弱くなってしまう。つまり、金属を使わないことで、解体したときに、それらの木を再利用できるようにしているのです。

このように、一度使ったものを再び使おうというリサイクルの心をもつこ

だれもが感じる
命の大切さについて下郷中学校 1 年
玉川 翔也

みなさんは、命について真剣に考えたことはありますか。

あれは今から六年前、私の保育所終了式の二週間前に、東日本大震災は起こりました。

私の住んでいる町は幸い大きな被害も受けず、避難することなく、無事小学校の入学式を迎えることができました。そして、思い出のつまった小学校生活を終え、私は今年、中学生となりました。時々テレビなどで報道される被災者のみなさんの苦勞を知り、あたりの日常が幸せに感じます。

一方で、最近、いろいろなところでいじめ問題が発生し、多くの子どもたちの貴い命が失われていることを新聞やニュース、インターネットなどによく見聞します。

この間も朝起きてテレビをつける

と、他県のいじめのニュースが流れていました。

「えっ、どこの県？」

と、そのニュースに釘付けになりました。なぜなら、今年に入ってから県内でもいじめによる自殺があったからです。それまでは、自分にはいじめなんて関係ないと思っていたが、このニュースは私がいじめについて考えるきっかけとなりました。

いじめの実態はどんなものなのか。なぜいじめが発生するのだろうか。過去の自殺に関するデータを調べてみると、日本全体の自殺者の数が減っている中で、小・中・高校生は減っていないのが現状です。小さなことが原因で無視をしたり、誰かの悪口や陰口を言ったりしたという経験は、誰しも少なからずあるのではないのでしょうか。私にもあります。私の場合は、性格が合わない、ちよつと苦手だなどと思うと距離を置いてしまします。関わりを持たないという態度は、無視をするのとあまり変わらないのではないかと考えさせられました。自分ではいじめているという意識がなくても、相手

が「嫌だ」「辛い」と思った時点で、それはいじめになっています。このようにいじめ問題は、今の世の中では、学生の間だけでなく、大人の社会でも普通にありえることなのかもしれません。

最近では、ネットやラインを使ったいじめが多発しているようです。自分の知らないところで勝手に書き込みをされたり、中傷されたりもします。私の友達の中学校でも、ラインの書き込みによるいじめがあったことを聞きました。友達は、ラインはしているものの、あまり興味がなく、いつ書き込みがあったのかもわからず、消すのが大変だったそうです。たとえその書き込みを削除したとしても、見た人の記憶には残ってしまい、書かれた人の心の傷もすぐには消えません。この問題は、インターネット機器が普及するにつれて便利になっただけでなく、新たな問題が発生し、危険性も増えていることを改めて教えてくれました。

いじめをなくすためには、どうした

らよいのだろう。私は思います。まずは、自分がされたらどんな気持ちになるのかを考え、相手の気持ちになって行動すること、そして、相手の短所ではなく長所を見つけようと努力すること、これらを一人一人が意識すれば、人間関係も少しずつ変化し、いじめはきつと減っていくと思います。また、いじめに遭っている人はひとりで抱え込まず、それを周りの大人や友達に勇気をもって伝えてほしいです。そして、周りの人も、気づいたら見て見ぬふりをせずに声をかけてほしいと思います。大切な友達が、いじめを苦しめて自殺してからでは遅いのです。

私たちには、一人にひとつずつ天から授けられたかけがえない命があります。東日本大震災で一瞬にして命を亡くした人たち、病気で生きたくても生きられない人たちの分も、私たちは互いの命を大切にしなければならぬと思います。皆さんも、今、自分にできることを一つずつ行動に移していきたいと思います。

言葉を刃にするな



下郷中学校 2 年
鈴木 理子

先日、向かいのお宅に、かわいい双子の赤ちゃんが生まれました。双子ちゃんには、ご両親から、未来への希望や家族の愛情が込められたすきな名前が贈られました。また、誕生の知らせを受けた人たちは、祝福の言葉で赤ちゃんの幸せを願いました。

さて、それから十数年後、赤ちゃんは中学生になります。彼らの毎日は、幸せに満ちた言葉で彩られているのでしょうか。

あなたは、学校が楽しいですか。人間関係に不満はありませんか。あなたを不当に傷付ける言葉を投げかける第三者はいませんか。

双子ちゃん誕生を知り、わたしはとても幸せな気持ちになりました。愛に包まれて生まれてきた赤ちゃんはどんなに幸せだろうと。そして、思ったのです。わたしも、友人も、こんな風に生まれてきたはずだと。そのわたしたちは、中学生になった今、幸せと言えるのだろうか。

わたし自身は、多少の不満はあっても、友人に恵まれ、打ち込める部活があり、毎日が充実しています。でも、学校生活の中で、自尊心を傷付けられるような出来事が起きてしまった人もいます。今、誰かの顔を思い浮かべた人はいませんか。

自分を含め中学生は、幼い頃に比べ、不用意な発言を簡単にするようになったと感じます。最近ではSNSの拡大により、顔を合わせなくても、確実な凶器として言葉を使えるようになりました。ほんの二言のつもりで軽率な言葉が、消すことのできない事実として残り、大きな社会問題にもなっています。

飲食店の店員が来客者の悪口を書き込み、ツイッターが炎上した例。犯罪行為をおもしるがって書き込み、大学生が退学になった例。そして、わたしたち福島県民が心を痛めた、東日本大震災による原発事故に由来する数々の誹謗中傷の例。これらは全て、自分の発信力に対しての認識不足が招いたこ

とです。自らが発した言葉には、必ず受け手がいることを忘れてはいけません。それがSNSであれば、小さな画面に向かってつぶやいただけだと、認識がちです。実際には、画面の向こうに世界中の人間の目があり、消したくても消せない事実として残るので

日本は、今年、最後の戦争から七十二年にあたります。学び、働き、遊び、不当に命を奪われることのない平和な国です。でも、知っていますか。日本の年間の自殺者数は、世界最悪の紛争地帯であるソマリアの民間人の死者数より多いということを。また、若年層といわれる十五歳から二十四歳の自殺率が、この二十年間世界一だということ。

悪口が自殺に直結するわけではありません。でも、殴る・蹴るなどで体を傷付けられたことより、何気ない一言が心に深く刺さった経験の方がずっと多くはありませんか。忘れられない、

許せない一言がありませんか。冷たい言葉は、それひとつで人の心をえぐります。人に死を考えさせる負の力を持つ言葉が確かに存在するのです。生まれたてのかわいい赤ちゃんに、その刃を向けることができますか。赤ちゃんをいっつくしむお母さんを傷付けることができますか。

言葉には力があり、正にも負にも、圧倒的な力で動きます。時には命を動かすほどに。誰かの言葉に励まされ、力をもらい、笑顔になったことを思い出してください。わたしの心に浮かんだのは、中体連のあの目です。あの一球、あの一点向けられた主力の声援。言葉が与えてくれた力の大きさ。

あなたの一言には、あなたが思うよりもずっと大きな力があります。誰かの人生に影響を与えるかもしれません。言葉を使う者として、無自覚でいるのはとても危険なことなのです。言葉を刃にするな。それが、今、私の一番伝えたいことです。



とが、現在の環境問題の改善につながっていくのではないだろうか。

今、下郷中学校では、プラスチックのごみと燃えるごみを分別して捨てるようにごみ箱が各教室に二つ設置されています。その理由は、リサイクルの考え方からだと思います。ごみを細かく分別するということは、リサイクル出来るものと出来ないものに分別をしているということだと私は考えました。ですから、プラスチックのごみやペットボトルを燃えるごみに捨ててしまおうと、それはリサイクルする資源を減らすことにつながってしまいます。

このようなことをしてしまうと、リサイクルへとつながっていきません。

このように、リサイクルという意識をもつことが、限りのある資源を有効に使っていくことにつながっていきます。現在、地球上にある資源は無限ではありませんので、大切に使うことが重要なのです。

そして、今回は紹介しませんが、リサイクル(recycle)以外にも、リデュース(reduce)・リユース(reuse)・リペア(repair)・リフューズ(refuse)という5R運動なども進んでいます。このように、私たちにやれることは、

いろいろあります。この地球をどのような形で救っていくかは人それぞれです。みんな協力しあい、地球を守っていきましょう。

この“想” 伝われ

下郷中学校 3 年

星 恵摩

皆さんは、相手に何かを伝えるために、どのような方法を使いますか。言葉、表情、しぐさと、方法はさまざまですが、私はその中に「踊り」という表現手段もあるのではないかと思っています。

私は、幼いころから下郷町のよさこいチーム「郷人」に所属し、会津の歴史と武士道精神を伝承するため、活動が続いています。私がこれほどまで長く夢中になってやってこられたのはなぜだろう、そんなことを今回、改めて考えてみました。

毎年胸躍らせて迎える三月。いよいよ、今年私たちが挑む新曲「会津魂」

想」の練習がスタートしました。「今年のメインは女隊だ。女性ながらも、着物の上に袴をはき、なぎなたを手にして戦に向かった中野竹子。その、会津の女性にしか表現できない力強さを演舞で表現するぞ。」

リーダーの言葉を受け、私は、「よっしゃ、やってやる！」とそう強く心に誓いました。

二か月後の五月。新曲のお披露目ともなる大会「常陸国よさこい祭り」が、茨城県で開催されました。前日届いたばかりの真新しい衣装に身を包み、順調にファイナルまで駒を進めた私たち。代表の気合の入った号令を合図に、

無我夢中で踊り切った私には、全て出し切れたという達成感がありました。しかし結果は三位。あと少しのところで頂上を逃してしまったことが悔やまれました。

次の週には、今度は北海道で行われる「よさこいソーラン祭り」に向けての練習が始まりました。誰もが前回の悔しさをバネにし、練習に一層力が入りました。演舞のビデオを何度も見返しては納得のいくまで練習し、構成も細かいところまで妥協せず、改良に改良を重ねていきました。

そんなある時、リーダーから集合の声が掛かりました。

「今年のテーマは何だ？ どういう気持ちで踊ればいいんだ？ 声は出ているなし、振りにもメリハリがない。みんなが一生懸命やらなかったら、なんの想いも伝わってこないぞ。」

思いがけないリーダーの言葉に、私ははっとしました。自己満足で終わってしまうような、そんな演舞じゃ、通用しないんだ。もっとしっかり踊りと向き合わなくては。それからの私は、少しずつですが何かが変わっていくのを感じました。その後、「良くなったぞ」と、リーダーが掛けてくれた言葉と涙でにじんだ笑顔が、私の背中をさらに押してくれました。

友達とは

下郷中学校 2 年

渡部 心優



みなさんは友達というものをどう考えていますか。私は絶対に必要なもの。大切なもの。そう思います。私は友達に嫌がらせをされたことがあります。仲間外れにされたり、裏で悪口を言われたり。私はそのとき、友達なんかいない、必要ないと思いました。しかし、そんなときに手を差し伸べてくれたのは友達でした。「大丈夫？」「相談に乗るよ？」など優しい言葉をかけてくれたり、そばにいてくれたりしてくれました。私はこの時本当に嬉しかったです。

私はある時、インターネットを見ていてこのような記事を見つけました。「友情なんて本当はシンプルです。本当の友達とはいつでも連絡して、すぐに会える関係です。ある人が電話で『もしもし何してる？』『特に何もしてないよ』『じゃ、遊ぼう』『いいよ、じゃあどこで会う？』たったこれだけの会話ですが、これだけで十分ではないです。」

すか。そんなシンプルなものではないでしょうか。」

という記事です。私はその記事を見たとき、妙に納得させられました。私はある場面を思い出しました。それは、朝の挨拶の場面です。朝、学校に登校してきて友達と会います。そのときに「おはよう」と声をかけると、「おはよう」と声が返ってくる。この何気ないごくありふれた日常の中に、私は「友達っていいな」と強く感じました。先ほどの記事と同様にシンプルですが、私の心には強く刻まれています。

また、友達について先ほどの記事では次のようにも述べていました。「友達とは、自分の存在を受け入れてくれるもの」

言葉だけを聞くと、少し重い印象を受けますが、私はこの言葉に非常に深さを感じました。

人にはそれぞれ長所と短所があると思います。皆が皆同じではありません。

苦手としていることが必ずあると思います。それらを受け入れてくれること。例えば、何か失敗をしたときに、励ましてくれる。皆さんが普段何気なく行っている行動かもしれませんが、その人にとってはとても大きいことなのです。

このように、友達とは至ってシンプルに成り立つのではないのでしょうか。普段何気なく行っている行動でも、自分や相手にとってはとても大きなことなのかもしれません。

ところが、人間関係とは難しいものです。友達との関係がうまくいかなかった経験が皆さんにはありますか。昨日まで普通に話したり、一緒に遊んだりしていたのにも関わらず、いきなり話しづらくなったりするといったことがあります。

しかし、これらはちよつとしたことがお互いのすれ違いによって、大きな溝と勘違いしてしまっているだけなの

ではないでしょうか。今までとても仲良くしていたのに、ちよつとしたことで、疎遠になってしまふというのは、とてももったいないように私は感じます。

今回私は「友達とは」という題で文章を書かせてもらい、改めて友達とは何かを考えさせられました。友達とは、とても大切で、なくてはならない存在だと感じました。友達がいることで、友達と過ごすことで何気ない退屈な日常でも楽しく、晴れやかになります。困難なことでも乗り越えていきます。もし、友達がいなかったら？ と考えると怖いのです。

友達がいるから今の私がいる。私は、友達がとても大好きでとても大切でとても大事な宝物です。



受験について 考えたこと

下郷中学校 3 年
星 美咲

私は今、中学三年生。毎年二月・三月頃にやってくるもの。それは、受験。いよいよ私たちにもそのときが来たのだ。

四月から三年生になり、いろいろな活動の中心となるとともに受験生と呼ばれるようになった。そして、どの教科の授業でも「受験」や「入試」という言葉が頻繁に聞こえてくるようになった。

私はこの「受験」というものに対してなんだかもやもやした感情を抱いている。なぜ受験というものが存在するのか。中学校生活最後の年に受験という壁があり、その結果次第では、人生が大きく左右されること。中学校生活最後の一年を思いっきり楽しみたい出に残るものになりたいと思う人は多いと思う。いまだに、もやもやは晴れないままだ。

そこで私は、受験とは一体どんなものなのか、それについて考えてみることにした。まず、私の中には受験という辛さがある。受験は中学校三年生までに習ったところから出題される。それを五教科それぞれ勉強

強するのだから、辛いという考えがどうしても先に来ってしまう。しかし、受験について先輩たちに話を聞く機会があった。卒業生はこのようなことを口にしていて。

「最初はもちろん嫌だったが、その中でも友達と声をかけあったり、目標のために一緒に教え合ったりして友情が深まった。」

「中学校で一番充実していた。濃い半年だった。」

「周りからの応援が嬉しかった。」

この話を聞いた後から、私の中で受験に対するもやもやを感じることはなかった。驚いたことにほとんどの先輩たちが、受験に対して前向きな発言をしていた。受験という方程式を崩すには十分すぎる話であった。

先輩の話だけでも十分ではあったが、私なりに受験についてもう少し調べてみた。受験を経験することで、私たちにはどのようなメリットがあるのか。まず、受験のために、勉強をする。勉強をすることで、今までに学んできたことを思い出すきっかけを作ることができる。また、一人ではなく、他の

皆とも勉強をしていくため、教え合うこともできる。他には、精神的にも強くなることや一つの目標に向かって皆で取り組むため、非常に充実した時間を送ることができるといった記事も見つけることができた。これらのメリットの一方で、受験に対する後ろ向きな内容も見えてきた。精神的に辛い時期、自由時間がなくなる、自分に余裕がもてなくなるといった内容だった。

確かに、私もこういった後ろ向きな考えは頭の中にあつた。しかし、先ほど述べた先輩たちの話から勇気をもらうことができた。そして、受験という大きな壁に臨むのは私だけではないこともわかった。もちろん、一人一人が自分のために勉強をするということに変わりはないが、友達と声をかけ合ったり、そういった雰囲気を作り出したることで、この受験というものを乗り越えられるのではないかと思つた。

時間が経つのは早いもので、「光陰矢の如し」という言葉通りである。

小学生の頃に親から、

「中学校生活の三年間はあつという間

に過ぎるよ。」と声をかけられたのを覚えている。その頃の私は「三年間もあるのだから長く感じるに決まっている。」と、そんな風に思っていた。だが、今になって思うと父や母が言っていたことが本当だったと思う。もうあつという間に受験生であり、中学校生活も残りわずかである。受験に対する焦りも出てきている。志望校に合格するにはもっともっと勉強に力を入れなければならぬ。そう分かっていても家に帰ると疲れて寝てしまつたりしたらだら過ぎてしまった。残りわずかしかないう時間を思いっきり楽しみ、全力で受験に向かつていこうと思う。

「受験。」それは自分自身との勝負である。しかし、団体戦でもある。これから大きな壁に向かっていく中で不安・辛さで押し潰されそうになるときがあるかもしれない。しかし、決して一人ではない。自分の目標のために受験という大きな壁を乗り越えるために一歩ずつ前に歩き出していこうと思う。



よさこいソーラン祭り当日。朝から降り続いて雨も、私たちが出番を迎える頃にはいつしか収まり、いざ、本番！仲間を信じ、自分を信じ、私たちの想いを届けようと、ただただ無心で踊った五分間に悔いはありませんでした。しかし、結果はまさかのプロック三位。どうして？といった何が足りなかったんだろう？こらえていたものがあふれ出し、人目も気にせず、ただひたすら泣きました。

「みんなに悔しい思いをさせてごめん。」

私たちのことを常に一番に考え、指導してくれるリーダーに、「ごめん」の一言を言わせてしまったことに申し訳ない思いでいっぱいでした。雨に濡れながらも必死に私たちを支えてくれたスタッフや応援してくださったお客さんと共に喜び合えたなら、どんなにうれしかったことでしょう。この大会で私が得たものは、悔しさだけでなく、言葉には言い表せない貴重なものとなりました。

「相手に想いを伝える」ということは、たやすいことではない。自分が努

力しなくては何も伝わらない。私はそれを身をもって経験しました。この先もまた、新たな壁が立ちはだかることでしょう。でも、まだまだ自分たちは変わっていない。苦楽を共にする仲間とうれし涙を流せる日が来ることを信じ、これからもたくさんの人たちの想いを背負って一生懸命頑張っていきたい、そう強く思います。

青少年健全育成作品コンクール入賞者

＊標語の部 小学生の部（5年生）

賞	氏 名	内 容	学 校
最優秀賞 1点	さくらぎ み ゆ 櫻木 美優	心の手で いろんな人と言葉の キャッチボール	旭 田
優秀賞 2点	いがらし ゆづき 五十嵐 悠月	ふるさと家族も 笑顔がいっぱい 下郷町	江 川
	ほし ま ゆ 星 真由	楽しい日々 作り上げよう 友達と	檜 原
佳作 5点	ゆみた ま お か 弓田 真央佳	ラインより 直接言って 「だいじょうぶ？」	旭 田
	ゆみた ゆ う と 弓田 悠翔	身に付けよう 「つい」に負けない 強い心	旭 田
	いがらし じ ゅ り 五十嵐 琉璃	冷たい言葉 そんなのいやだ あたたかく	江 川
	さとう た く み 佐藤 拓海	ひまわりいっぱい えがおいっぱい ぼくの家	江 川
	たまがわ ゆ う り 玉川 裕理	下ごうの 自然を守る 自分たち	檜 原

＊標語の部 中学生の部

賞	氏 名	内 容	学 年
最優秀賞 1点	ほし り な 星 里奈	ありがとう 言って言われて 笑顔咲く	2
優秀賞 2点	むろい な な み 室井 虹美	地域の輪 笑顔あふれる 町づくり	1
	ゆ だ あ い り 湯田 愛里	考えよう 相手の気持ちと 泣いた顔	3
佳 作 4点	おやま こ う 紘 小山 紘	思いやり 手と手をつなぐ 笑顔の町へ	1
	ほし み ず き 星 海輝	あせらずに 未来に向けて 一歩ずつ	1
	しらいし れ い や 白石 滯莉	育てよう 友との絆と 家族の絆	2
	さとう あ の ん 佐藤 愛音	ごめんなさい 言えるあなたに ありがとう	3

＊ポスターの部 小学生の部（6年生）

賞	氏 名	内 容	学 校
最優秀賞 1点	ほし あ や の 星 朱乃	一人じゃない きっとだれかが助けてくれる	旭 田
優秀賞 2点	すずき こ こ 鈴木 胡子	みんな友達	江 川
	おぬま ち ひ な 小沼 千雛	友達と秘密の暗号こんにちは	檜 原
佳作 5点	さとう い ぶ き 佐藤 桜	あなたならどっちをえらぶ	旭 田
	さとう か ほ 佐藤 華帆	なんのために生きていく？	旭 田
	あ べ さ く ら 阿部 桜々	わかれ道 (あなたはどっちに行きますか？)	江 川
	あさぬま な な 七 浅沼 七星	スマホから目をはなせば ほら笑顔	檜 原
	まつや た け る 松矢 猛流	未成年が飲むのは禁止	檜 原

＊ポスターの部 中学生の部

賞	氏 名	内 容	学 年
最優秀賞 1点	たまがわ い ず み 玉川 出海	あなたにあげる 笑顔という名の太陽を	2
優秀賞 2点	いたばし さ き 板橋 咲季	イジメをなくし涙ゼロ	2
	うめみや り な 梅宮 莉生	あいさつの花 (あいさつは人と人をつなげる言葉)	2
佳 作 4点	さかい ゆ ず は 酒井 柚葉	未来への努力を積み上げよう	2
	かわしま え み 川島 詠実	ドラックは身を滅ぼす	3
	さとう あ の ん 佐藤 愛音	自然はゴミに壊されます 私達で守りましょう	3
	ゆ だ あ い り 湯田 愛里	分け合おう優しさ・ 気持ちしっかりと	3

